

平成25年8月15日（木）磐田市戦没者・戦災死者追悼式

平和への想い（竜洋中 上妻成実）

私は、広島平和記念式典派遣団の一員として、8月5日と6日の2日間、広島を訪れました。広島では、原爆ドーム・平和記念資料館・安田女子高等学校を訪れ、広島平和記念式典に参列しました。原爆ドームはそこだけ空気が違うように感じました。写真で見るとよりもずっとボロボロなのに、しっかりと立ち、重い空気と威圧感を放っていました。広島の方は、原爆ドームを見るたびに当時のことを思い出してしまうかもしれないのに、逃げずに受け止めていることがすごいとおもいました。

平和記念資料館では、様々な展示品を見ました。原爆が投下された8時15分で止まった時計、階段に残された人の影、熱線を受け焼けた三輪車などどれも痛々しいものばかりでした。その中で一番私の印象に残ったのは、原爆が投下された直後の人々を再現した人形です。皮膚はやけどで溶け、血が体中に滲み、まさに生き地獄という感じでした。思わず目を背けたくくなりました。人形だと分かっているのに、とても悲惨で怖くなりました。でも、それ以上の何百倍、何千倍もの恐怖が当時の人々を襲ったと思うと、自然と目は背けられませんでした。背けてはいけないと思いました。

安田女子高等学校では、被爆桜を見ました。被爆桜は平均寿命を超えていて、いつ枯れてしまってもおかしくないのに、力強く一生懸命に生きていました。春にはきれいな桜が咲くそうです。安田女子高等学校の生徒会では、被爆桜二世の苗木を全国の学校に送っているそうです。私の通っている竜洋中学校も苗木をいただいているので、大切に育てて平和の大切さと原爆・戦争の愚かさを忘れずに行けたらと思います。

広島平和記念式典では、こども代表の『行ってきます。』と出かけた家族、『ただいま。』と当たり前に戻ってくると信じていた。でも、帰って来なかった。』という言葉が胸に響きました。

私たちがいつも当たり前に行っていることは、とても幸せなことだったんだと気づかされました。家族と一緒に食事をしたり、学校で授業を受けたり、友達とケンカすることでさえ、幸せなことだったんです。被爆者だからと差別される悲しみ、大切な人を一瞬にして奪われた怒り・苦しみ、様々な思いを一生背負って生きていく人たちにとって、私たちの当り前は望んでも手に入らない幸せなのかもしれません。

私は、今回この広島平和記念式典派遣団の一員として広島を訪れ、広島平和記念式典に参列できたことを本当に誇りに思い、感謝しています。今回の体験を通して、私は平和の大切さを改めて感じる事ができました。平和はとても尊く、築いていくのは大変だと思います。しかし、これからの未来を背負い平和を築いていくのは、私たち子どもです。今、私ができることは限られていて、将来何が出来るのかも分かりません。でも、今、限られた中でも、私ができる最大限のことをやろうと思います。また、私が感じて学び考えたことを、竜洋中の生徒をはじめとする多くの人々に伝えていきたいです。

最後に、核兵器も戦争もなく、全ての人々が安心して暮らせる平和な世界を願うとともに、過去の戦争で亡くなられた多くの方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

磐田市立竜洋中学校 3年 上妻 成実（こうづま なるみ）